

災害医療歯科学入門

Introduction to Disaster Relief Medicine/Dentistry

キーワード

- ① 災害医療
- ② 災害歯科医療
- ③ 横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センター
- ④ 口腔衛生
- ⑤ 保存・補綴治療

授業概要

歯科による災害時医療と身元特定的重要性について理解する。災害医療としては、災害の種類と時系列による対処法と災害への横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センターとしての対処法や地元自治体との連携などの一般論と実践的な各論を理解する。身元特定では、法医学総論及び身元特定の方法を理解する。

授業科目の学修目標

災害医療では、災害総論と地元自治体との連携など、臨床的には急性症状に対する救急処置や即時義歯の作製法、アフターケア等の歯科処置の説明など実践的な内容を学修する。身元特定では法医学における個人識別の概説、さらにそれぞれについての方法、特に歯の所見採取とデンタルチャートの記載法、歯からの年齢推定法やDNA鑑定法を学修する。

授業計画

- ① 災害医療と法医学を解説する。 16コマ（内、倫理4コマ） 山田良広
- ② 災害と行政システムを解説する。 8コマ 槻木恵一
- ③ 災害時の口腔衛生を解説する。 2コマ 木本一成
- ④ 災害時の保存治療を解説する。 2コマ 二瓶智太郎
- ⑤ 災害時の補綴治療を解説する。 2コマ 星憲幸

教科書および参考書

1. 法歯科医学、高橋雅典監修、永末書店
2. 臨床各論の教科書

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

災害医療歯科学では、行政との係りなど社会のしくみを知るとともに、基本的な歯科治療を完全に修得した後の応用であることを理解する。法医学においては検死を通して法医実務経験を修得する。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 災害医療に法医学が含まれる意義を理解し、身元確認作業を実践できる。
- ② 災害医療歯科学の基本を理解し、災害と行政システムの連携を説明できる。
- ③ 災害時の歯科治療の特殊性を理解し、通常の口腔衛生管理を応用できる。
- ④ 災害時の歯科治療の特殊性を理解し、通常の保存治療を応用できる。
- ⑤ 災害時の歯科治療の特殊性を理解し、通常の補綴治療を応用できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、総論各論の6項目について課題を提出する。5%×6回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

災害医療歯科学入門の達成レベルは60%以上とする。特に、臨床・法医学の理解に関しては100%を求める。